

宮城・福島 震度6強

新幹線脱線 原発の冷却一時停止

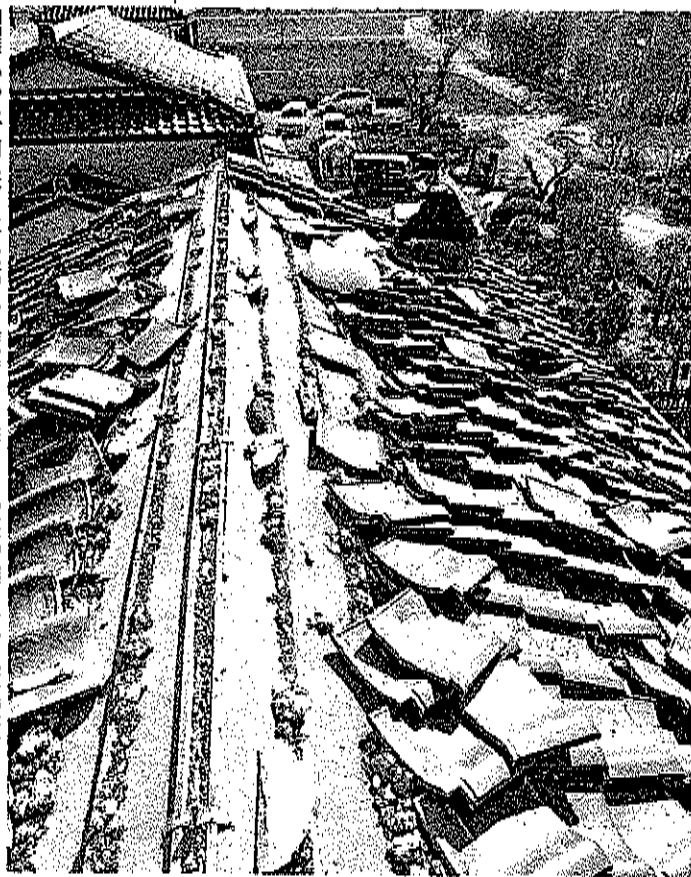
16日午後11時38分ごろ、福島県沖を震源とする地震があり、宮城県登米市や福島県相馬市などで震度6強の揺れを観測しました。気象庁によると、震源の深さは57キロ、地震の規模（マグニチュード）は7.4と推定されます。両県に一時津波注意報が出され、宮城県で最大30センチの津波を観測。東北新幹線では走行中の車両が脱線。東京電力福島第1原発などでは使用済み核燃料プールの冷却が一時停止するなどのトラブルが多発しました。

政府などによると、地震 60人以上が負傷しました。日未明にそれぞれ20歳の津波が到達。気象庁は同日午後5時に注意報を解除しました。

うち登米市の70代男性1人は地震との関連が確認されました。午前2時14分に30歳、仙台港と福島県の相馬市では同 JR東日本によると、東

北新幹線下り線の福島ー白石蔵王間で「やまびこ223号」（乗客乗員78人）が緊急停止し、17両編成のうち16両が脱線。けが人はいません。全線復旧は4月以降となる見通し。国土交通省によると、営業運転中の新幹線の脱線は、2004年の新潟県中越地震以来。原子力規制庁によると、東京電力福島第2原発の1、3号機でも、使用済み核燃料プールのポンプが一時停止しましたが、その後復旧しました。

地震に不安再び
地震のメカニズム
被災地では
東電が会見



地震でかわらが崩れた路軌の上で作業する関係者(17日、福島県相馬市) (中野博隆)